

単元名 2 新しい視点で 一ちょっと立ち止まって

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 文脈における語句の意味を正確に捉えることができる。
 (2) 段落や、図と文章の関係に着目して、具体的説明の内容や筆者の考えを読み取り、要旨をまとめることができる。
 (3) 説明的文章を読んで、筆者の考えを基に自分の生活を振り返ったり、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしたりする。

標準的な展開例

10210109_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 全文を通読し、文章の大まかな内容を読み取る。 ○学習の目標を知る。</p> <p>○新出漢字や注意する語句を調べる。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★文章の構成を押さえ、要旨を捉えよう。 ○全文を通読する。</p> <p>○全文を三つのまとまりに分ける。</p> <p>○筆者の考え(結論)を基に、文章の要旨をまとめる。</p> <p>2 筆者の最も伝えたい考えを捉える。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★筆者の最も伝えなかったことは何かを考えよう。 ○筆者の考えがまとめられている段落を捉える。</p> <p>○筆者の考えがまとめられた「結論(終わり)」の段落と、他の段落との関係を捉える。</p> <p>○「結論(終わり)」の段落から筆者の考えを捉える。</p> <p>○「結論(終わり)」を短く要約する。</p> <p>3 文章の要旨を踏まえ、筆者の考え方を日常生活に生かそうとする。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★筆者の考え方を、日常生活の中で生かせる場面を考えよう。</p> <p>○筆者の考え方を生かせる場面はないかを発表し合う。</p>	<p>・「目標」(p. 50)を確かめ、大まかな学習の流れを説明する。 ・国語辞典を活用するとよい。</p> <p>・教師の範読か、国語指導CDを活用する。 ・適宜、図に注意を向けながら聞かせる。 ・「学習①-1」(p. 50)を示して、本文が幾つかのまとまりに分けられることを説明する。 【評】全体を三つのまとまりに分ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・「文章の構成に着目する」(p. 50)や「説明的な文章を読むために」(p. 266)を参考にする 【評】要旨をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・「学習②」(p. 50)を示し、筆者の考えが「結論(終わり)」にまとめられていることを捉えさせる。 ・「本論(中)」の具体的な説明のどの部分が、「結論(終わり)」でどのように一般化、抽象化されているかを捉えさせる。 ・筆者の考えは、最後の一文で簡潔に述べられていることを捉えさせる。 ・自分が読み返して分かるように要約させる。 【評】「結論(終わり)」を要約する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・学習③(p. 51)を示し、読み取ってきた筆者の考え方を日常生活で生かせるよう、考えを深めることを確認する。 ・前時の終わりに、本課題を予告し、生徒に考えさせる時間を与えるとよい。 ・挙げられた意見に関しては、筆者の考え方に対応しているか検討していく。 【評】日常生活の中で、筆者の考え方を生かす場面を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

中学校での本格的な国語学習として、このまとまりでは、説明文の読みや記録の仕方の工夫について練習するなどして、説明や記録の基本的な事項について考えていく。現行の学習指導要領の特徴の一つは表現の工夫を読み取ることにあり、そこに焦点化する最初の学習となる。展開の違う二つの文章を読むことを通して、表現の工夫に気付かせたい。

また、好きなものを紹介する活動や情報の集め方を知る活動は、より広く多様なものの見方などに触れることができる。「情報社会を生きる」では、中学校での情報活用能力についての学習の基本として押さえておきたい。